

秘

総務省承認 No.
承認期限 平成 年 月 日まで

血液製剤使用状況調査票(案)

(上記印字内容に誤りがある場合は、訂正をお願いいたします。)

この調査は、統計報告調整法に基づき、国が実施する「承認統計調査」であり、統計目的以外では使用できない等、個人情報保護の面で厳密な取扱いを行うことが保障されております。また、平成17年4月施行の「個人情報の保護に関する法律」上も、「承認統計調査」への情報提供は問題ないとされておりますので、漏れのないよう、正しく記入してください。

本調査票にご記入いただいた内容について、不明な点などがありました場合、問い合わせをさせていただくことがあり得ます。恐れ入りますが、その際の窓口になっていただける方のお名前と所属をご記入下さい。

お名前		所属		Tel
				(内線)
				Fax:
				E-mail:

I 貴医療機関の概要についてお尋ねします。

1. 現在の病床数(一般病床のみ)はいくつですか。()床

2. 標榜診療科は何ですか(以下で該当するもの全てに○を付けて下さい)

- (1)内科 (2)心療内科 (3)精神科 (4)神経科(神経内科) (5)呼吸器科
- (6)消化器科(胃腸科) (7)循環器科 (8)アレルギー科 (9)リウマチ科
- (10)小児科 (11)外科 (12)整形外科 (13)形成外科 (14)美容外科 (15)脳神経外科
- (16)呼吸器外科 (17)心臓血管外科 (18)小児外科
- (19)皮膚泌尿器科(皮膚科又は泌尿器科) (20)性病科 (21)こう門科
- (22)産婦人科(産科又は婦人科) (23)眼科 (24)耳鼻いんこう科 (25)気管食道科
- (26)リハビリテーション科 (27)放射線科 (28)麻酔科

3. 血液製剤のうち、参考2及び参考3の表に掲げる製剤の使用（平成16年4月1日から平成17年3月31日の1年間）の有無について、該当する番号に○を付けて下さい。

(1) あり

(2) なし →有り難うございました。ここで終了です。

↓

【以下は記入せず、調査票を必ず御返送願います】

引き続き以下の質問にご回答下さい。

該当する各製剤毎の年間使用量（平成16年度）を記入して下さい。（対象製剤、使用量の換算等については参考1～参考3をご覧下さい。）

①赤血球濃厚液（MAP）（ ）単位

②新鮮凍結血漿（ ）単位

③血小板濃厚液（ ）単位

④アルブミン製剤（加熱人血漿たん白製剤を含む）（ ）g

⑤免疫グロブリン製剤（ ）g

II 貴医療機関における血液製剤に関する管理部門等についてお尋ねします。

*特段の指定のない限り、直近（調査時点）での状況をご回答下さい。

1. 輸血用血液製剤に係る輸血業務（血液入出庫、輸血検査、台帳管理等）は一元管理していますか。（一元管理とは輸血業務を一部門で統括して実施することです。）

(1) はい

(2) いいえ →輸血業務は、どこの部門で行われていますか（該当するもの全てに○を付けて下さい。）

①輸血部（室）又は検査部（室）②薬剤部 ③病棟 ④その他（ ）

2. 血漿分画製剤（アルブミン、免疫グロブリン等）の管理は、どの部門で行われていますか。（2つ以上の場合は該当するもの全てに○を付けて下さい。但し、時間外は除く。）

①輸血部（室）又は検査部（室）②薬剤部 ③病棟 ④その他（ ）

3. 上記2で輸血部門以外で管理している場合、当該管理部門が、血漿分画製剤の使用状況等を輸血療法委員会又はそれに代わる委員会（以下「輸血療法委員会等」という。）に報告し、輸血療法委員会等が評価するとともに、使用者への指摘やデータ管理を輸血部門と共有していますか。（注：輸血療法委員会等の設置の有無については問8でお伺いします。）

(1) はい (2) いいえ

4. 病院の輸血療法全般及び輸血業務を監督し責任を持つ医師（輸血業務担当や責任者として病院等から任命されている医師。以下「責任医師」という）を任命していますか。

(1) はい

(2) いいえ

(3) (上記(1)で「はい」と回答した場合) 責任医師は

①専任 ②兼任 ③所属は（ ）

④その者は「日本輸血学会認定医」ですか。：ア. はい イ. いいえ

5. 病院で輸血業務全般を担当する輸血担当検査技師（輸血検査や輸血業務全般の担当者。以下「担当技師」という。）がいますか。

(1) はい

- (2) いいえ
- (3) (上記(1)で「はい」と回答した場合) 担当技師は
①専任 ②兼任 ③人数:ア. 1人のみ イ. 複数
④「認定輸血検査技師制度」の認定検査技師ですか。:ア. はい イ. いいえ
⑤専門性を考慮し、当該担当技師の異動を最小限にする配慮をしていますか。
ア. はい イ. いいえ
6. 「担当技師」による輸血検査は24時間対応できる体制を取っていますか。(検査技師の勤務時間外は医師が輸血検査をする場合は(2)いはいと回答して下さい。)
(1) はい (2) いはい
7. 「担当技師」、「責任医師」等の活動に関して、お尋ねします。
(1) これらの者は、日本輸血学会の輸血認定医又は認定輸血検査技師の資格取得やこれに関連する図書の熟読、講習会の参加等、各種指針等を用いた勉強会の活用等、輸血医療の適正な実施に係る学習及び研究を励行していますか。
①はい ②いはい
(2) 医療機関管理者は、これらの者が指摘する輸血医療に関する発言等を尊重するよう、院内のコンセンサスの確保に努めていますか。
①はい ②いはい
(3) 「担当技師」が、主治医等からの血液発注量が各種指針に準拠せず、多かつた場合等に、「責任技師」及び「輸血療法委員会等委員長」と協議し、その結果を踏まえ、「責任医師」又は「担当技師」が、主治医に対して使用量が多いことを指摘し、双方、十分な協議のもと理解を得た上で改善を促す体制にありますか。
①はい ②いはい
8. 院内に「輸血療法委員会」等を設置していますか。
(1) はい
(2) いはい
(3) (上記(1)で「はい」と回答した場合)
①委員長は医療機関管理者又は外科系医師(麻酔科を含む)ですか。
ア. はい イ. いはい
②委員会に、輸血が必要な症例の多い診療科の責任者を参画させていますか。
ア. はい イ. いはい
9. 「輸血療法委員会」等の開催頻度はどの程度ですか。
(1) 定期的 (週 回、月 回、年 回) (平成16年度実績)
(2) 不定期
10. 「輸血療法委員会」等として、以下の項目で実施しているものに全て○を付けて下さい。
(1) 血液製剤(主に、赤血球製剤、新鮮凍結血漿、アルブミン製剤、血小板製剤)の使用状況について、診療科ごとに比較検討している。
(2) 貴施設の管理者の指示のもと、毎月、診療科ごとの発注量、使用量、廃棄量等を各診療科の長に配布し、診療科内に掲示している。
(3) 血液製剤ごとに、月次、年次の使用量の比較・分析を行うとともに、「血液製剤の平均的使用量について」(平成16年12月27日付け薬食発第1227001号各都道府県知事あて厚生労働省医薬食品局長通知)を活用するなどして、他医療機関と比較検討及び評価している。
(4) 各種指針の遵守状況について、各科から報告・検討するとともに、当該医療機関での解決が難しい場合、合同輸血療法委員会又は「採血時の欧州滞在歴に関する問診の強化及び血液製剤の適正使用の推進について」(平成17年4月21日付け薬食発第0421003

号（社）日本医師会長等あて厚生労働省医薬食品局長通知）における別紙連絡先に照会している。

(5) 輸血実施症例の検討と使用指針に基づいた評価を行っている。

(6) 必要に応じて、保険診療での査定状況も症例毎に検討している。

11. 血液製剤による副作用（輸血感染症を含む）の報告体制について、該当するもの全てに○を付けて下さい。

(1) 病院内、日赤血液センター、厚生労働省のいずれへの報告体制もない。

(2) 病院内の報告体制はある。

(3) 日赤血液センターへの報告体制はある。

(4) 厚生労働省への報告体制はある。

12. 輸血感染症の疑いのある症例について、過去の輸血例も含めて、血液製剤による健康被害の防止の観点から、日本赤十字社又は厚生労働省へ報告していますか。

(1) は い (2) いいえ

13. 血液製剤の適正使用に関する、病院としての取り組みについて該当するはどれですか。

(1) 病院全体での取り組みはなく、個々の医師にまかされている。

(2) レセプト減点になるものについてのみ、病院で指導している。

(3) 輸血療法委員会などで検討し、病院全体で取り組んでいる。

14. 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」及び「薬事法」に基づく医療関係者の責務について、お尋ねします。

(1) 特定生物由来製品を使用する際には、原材料に由来する感染のリスク等について、特段の注意を払う必要があることを、十分認識していますか。

①は い ②いいえ

(2) 血液製剤の有効性及び安全性その他当該製品の適正な使用のために必要な事項について、患者又はその家族に対し、適切かつ十分な説明を行い、その理解を得る（インフォームド・コンセント）ように、努めていますか。

①は い ②いいえ

15. 平成17年の厚生労働省通知「血液製剤の使用指針・輸血療法の実施に関する指針」（以下指針）の遵守体制について、該当するものはどれですか。

(1) 「指針」については、個々の医師に任せている。

(2) 「指針」は、輸血関連部門には配備しているが、院内に周知していない。

(3) 「指針」を院内の医師、看護師に配布し周知しているがマニュアルはない。

(4) 「指針」を院内に周知し院内の輸血療法マニュアルに反映させて実施している。

16. 「指針」によれば、「(輸血後肝炎について)、早期治療を図るため、医師が感染リスクを考慮し、感染が疑われる場合などには、輸血前後の肝炎ウイルス関連マーカーの検査等を行う必要がある」とされていますが、この指針の条件に該当する患者に対する検査の実施状況をお伺いします。

(1) ほとんど行っていない。

(2) 一部は行っている。

(3) ほぼ全ての患者に対して行っている。

17. 厚生労働省通知「血液製剤の平均的使用量」（平成16年12月27日付薬食発第1227001号、各都道府県知事あて医薬食品局長通知、以下「通知」）について、お伺いします。

(1) 「通知」を知っていますか。

①は い

②いいえ

(2) 上記で「はい」とお答えの方に、お伺いします。「通知」の活用方法について、該当するものに○印を付けて下さい。

①「通知」は、院内への周知徹底等の特段の対応はせず、個々の医師に任せている。

②「通知」は、輸血関連部門には配備しているが、院内全体への周知徹底はしていない。

③「通知」は、院内全体での周知徹底はしている。

④「通知」を院内に周知徹底し、輸血療法委員会等で評価・検討するとともに、院内の輸血療法マニュアルに反映させるなど、活用している。

18. 厚生労働省通知「血液製剤の適正使用推進に係る先進事例等調査結果及び具体的強化方策の提示等について」（平成17年6月6日付各都道府県衛生主管部（局）長あて厚生労働省医薬食品局血液対策課長通知）を知っていますか。

(1) は い (2) いいえ

Ⅲ 貴医療機関における血液製剤の使用状況についてお尋ねします。

平成16年度（平成16年4月1日から平成17年3月31日）に使用した血液製剤の使用量等について、別添1～2の表にご記入下さい。なお、別添2は病床数200床以上の医療機関のみ、ご回答下さい。

○平成16年厚生労働省通知による「血液製剤の平均的使用量」との比較のために下記により記入して下さい。

- ① 貴施設の病床数と病院機能について、下記分類から該当するパターンを選択して下さい（A表の分類欄参照（A表で該当がない場合はB表））
- ② 参考1に基づき、平成16年度の年間使用量を算出し、病床数で除し、1床当たりの使用量を記入して下さい（a欄）

MAP : 赤血球濃厚液(MAP)総使用量 FFP : 新鮮凍結血漿の総使用量 PC : 血小板濃厚液の総使用量 アルブミン : アルブミン製剤の総使用量 グロブリン : 免疫グロブリン製剤の総使用量
 * 下表中の各製剤の「50%値」及び「90%値」とは、「平均的使用量」の数値です。参考値です。(例: MAP50%値2.9とは、対象施設の50%、半数の施設が1床当たり2.9単位以下の使用量)

A表

病院機能分類パターン					MAP(U)			FFP(U)			PC(U)			アルブミン(g)			グロブリン(g)		
病床	全麻	心臓	造血	血漿	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値
小	なし	なし	なし	なし		1.6	6.2		0.3	2.3		0.8	6.4		15	76		1.4	9.8
小	少	なし	なし	なし		2.9	7.1		0.6	3.0		0.9	5.0		18	65		1.4	5.3
小	少	なし	なし	有		5.0	9.5		1.3	6.8		1.3	9.5		28	119		2.2	10.0
小	多	なし	なし	なし		3.5	8.1		0.7	4.2		1.0	5.5		16	69		1.3	5.9
小	多	なし	なし	有		6.5	22.0		6.7	22.0		2.9	36.5		52	223		2.9	5.7
中	少	なし	なし	なし		3.5	5.9		1.3	3.7		1.6	5.4		28	55		2.0	5.6
中	少	なし	なし	有		4.2	6.4		1.9	5.1		2.6	8.6		34	92		2.4	6.4
中	少	有	なし	有		6.1	18.9		4.1	18.8		3.5	16.3		21	87		1.7	4.8
中	多	なし	なし	なし		4.7	7.5		1.6	5.0		2.6	12.0		31	76		2.7	5.5
中	多	なし	なし	有		5.2	8.5		2.9	7.2		4.6	15.2		44	97		3.5	7.6
中	多	なし	有	有		9.8	14.4		4.9	9.5		23.9	49.2		49	150		4.5	10.3
中	多	なし	有	有		6.7	10.6		3.8	11.3		4.8	19.0		43	64		2.3	5.0
中	多	有	なし	なし		8.8	15.7		5.3	15.1		7.3	16.0		56	145		3.6	6.7
中	多	有	有	有		11.2	19.4		7.4	16.9		20.3	59.5		68	153		6.2	17.8
大	多	なし	なし	有		5.8	9.9		3.7	6.6		9.9	24.1		47	94		3.7	11.7
大	多	有	なし	有		7.4	13.0		5.8	11.3		7.6	17.2		60	104		4.8	8.9
大	多	有	有	有		10.0	14.3		7.7	17.0		23.6	43.4		75	134		6.5	12.1

病院別、病院機能別分類(手術件数は平成16年度実績で換算して下さい)

病院機能(略称)	分 類		
一般病床規模(病床)	小:20-199床	中:200-499床	大:500床以上
全麻手術件数(全麻)	なし	少:2.00件未満/年・病床当り	多:2.00件以上/年・病床当り
心臓手術(手術)	なし	有	
造血幹細胞移植(造血)	なし	有	
血漿交換(血漿)	なし	有	

注)・各製剤の使用量は、1床当たりの年間使用量で換算
 ・全麻手術件数の分類は1床当たりの件数である

B表

パターン		MAP(U)			FFP(U)			PC(U)			アルブミン(g)			グロブリン(g)		
病床	全麻	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値	a	50%値	90%値
小	なし		1.6	6.2		0.3	2.3		0.8	6.6		15	76		1.4	9.9
小	少		3.1	7.7		0.7	3.8		1.0	6.9		18	65		1.5	5.7
小	多		3.8	10.1		1.0	9.3		1.3	10.1		16	69		1.7	6.8
中	なし		0.1	-		0.1	-		0.4	-		28	55		0.4	-
中	少		4.2	7.0		1.8	5.0		2.5	8.8		34	92		2.1	6.1
中	多		5.8	12.4		3.2	9.5		5.7	23.0		31	76		3.3	7.6
大	少		4.1	9.9		1.5	7.5		6.2	28.8		60	104		2.5	6.4
大	多		9.3	13.9		6.5	14.1		19.5	38.9		75	134		5.8	11.8

病院別、病院機能別分類(手術件数は平成16年度実績で換算して下さい)

病院機能(略称)	分 類		
一般病床規模(病床)	小:20-199床	中:200-499床	大:500床以上
全麻手術件数(全麻)	なし	少:2.00件未満/年・病床当り	多:2.00件以上/年・病床当り

○病床数200床以上の医療機関にお尋ねします。

別添2-①

- ①貴施設において、下記疾患について、外科手術等を施行した治療例(患者は20歳以上)について、症例毎に、平成17年(1月～12月)における直近30例程度の実績をご回答下さい。
(血液製剤の投与の有無は問いません。)
- ②対象症例について、平成17年(1月～12月)における症例数を、標題の括弧内に記入して下さい。
- ③患者の年齢、病態、製剤使用量(換算は参考1を参照)等について、下記により、記入又は該当するものに○を付けて下さい。

1 胃癌(全摘手術例のみ)	2 肝癌(亜区域切除例以上)	3 心臓病(人工心肺使用例のみ)	4 直腸癌(前方切除例のみ)
5 食道癌(内視鏡術は除く)	6 脳外科領域(開頭術例のみ、但し血腫除去のみの場合を除く)	7 子宮癌(全摘手術例のみ)	
8 異常分娩(帝王切開術例のみ) 9 急性白血病(化学療法又は造血幹細胞移植例)			

* 効率的血液準備方法:T&S法(血液型不規則抗体スクリーニング法)、MSBOS(最大手術血液準備量)、SBOE(手術血液準備量計算法)
* 自己血輸血法:貯血式(手術前に自己の血液を予め採血、保存する方法) 希釈式(手術開始前に採血し、人工膠質液を輸注する方法) 回収式(術中・術後に出血した血液を回収する方法)

1 胃癌(全摘手術例のみ) (症例/年)

患者番号	年齢	性別	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法* (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比)	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く
								総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
1-①		①男 ②女	()		①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE	出血量 ml ()	Hb値 () Ht値 ()		PT値 () APTT値 () フィブリノゲン値 ()		血小板数 ()		アルブミン濃度 ()	使用量 ml	
1-②																

2 肝癌(亜区域切除例以上) (症例/年)

患者番号	年齢	性別	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法* (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比)	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く
								総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
2-①		①男 ②女	()	肝硬変 (有・無) その他 ()	①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE	出血量 ml ()	Hb値 () Ht値 ()		PT値 () APTT値 () フィブリノゲン値 ()		血小板数 ()		アルブミン濃度 ()	使用量 ml	
2-②																

3 心臓病(人工心肺使用例のみ) (症例/年)

使用製剤・投与量 患者番号	年 齢	性 別	術式	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法 (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比)	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く
								総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
3-①		①男 ②女	①大動脈解離に対する血管置換術 ②弁置換術 ③冠動脈バイパス術		①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE	出血量 () ml	総使用量 (単位)	投与前 検査値 Hb値 () Ht値 ()	総使用量 (単位)	投与前 検査値 PT値 () APTT値 () フィブリノゲン値 ()	総使用量 (単位)	投与前 検査値 血小板数 ()	総使用量 (g)	投与前 検査値 アルブミン濃度 ()	使用量 ml
3-②																

4 直腸癌(前方切除例のみ) (症例/年)

使用製剤・投与量 患者番号	年 齢	性 別	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法 (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比)	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く
								総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値*	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
4-①		①男 ②女	()		①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE	出血量 () ml	総使用量 (単位)	投与前 検査値 Hb値 () Ht値 ()	総使用量 (単位)	投与前 検査値 PT値 () APTT値 () フィブリノゲン値 ()	総使用量 (単位)	投与前 検査値 血小板数 ()	総使用量 (g)	投与前 検査値 アルブミン濃度 ()	使用量 ml
4-②																

5 食道癌(内視鏡術は除く) (症例/年)

使用製剤・投与量 患者番号	年 齢	性 別	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法 (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比)	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く
								総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
5-①		①男 ②女	()		①有 (自己血輸血の併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE	出血量 () ml	総使用量 (単位)	投与前 検査値 Hb値 () Ht値 ()	総使用量 (単位)	投与前 検査値 PT値 () APTT値 () フィブリノゲン値 ()	総使用量 (単位)	投与前 検査値 血小板数 ()	総使用量 (g)	投与前 検査値 アルブミン濃度 ()	使用量 ml
5-②																

6 脳外科領域(開頭術例のみ、但し血腫除去のみの場合を除く) (症例/年)

別添2-③

使用製剤 ・投与量 患者 番号	年 齢	性 別	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法 (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比) ml ()	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く 使用量 ml
							総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
6-①		①男 ②女		①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE		Hb値() Ht値()		PT値() APTT値() フィブリノゲン値 ()		血小板数 ()		アルブミン濃度 ()		
6-②															

7 子宮癌(全摘手術例のみ) (症例/年)

使用製剤 ・投与量 患者 番号	年 齢	性 別	stage (分類法)	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法 (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比) ml ()	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く 使用量 ml
								総使用量 (単位)	投与前 検査値*	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
7-①		女	()		①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE		Hb値() Ht値()		PT値() APTT値() フィブリノゲン値 ()		血小板数 ()		アルブミン濃度 ()		
7-②																

8 異常分娩(帝王切開術例のみ) (症例/年)

使用製剤 ・投与量 患者 番号	年 齢	性 別	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法 (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比) ml ()	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く 使用量 ml
							総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
8-①		女		①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE		Hb値() Ht値()		PT値() APTT値() フィブリノゲン値 ()		血小板数 ()		アルブミン濃度 ()		
8-②															

9 急性白血病(化学療法又は造血幹細胞移植症例*) (症例/年)

* 骨髄移植、臍帯血幹細胞移植、末梢血幹細胞移植

使用製剤 ・投与量 患者 番号	年 齢	性 別	治療法	主な合併症	血液製剤の 投与の有無	効率的 血液準備方法 (活用した方法 に全て○を 付けて下さい)	出血量 (循環血液 量比) ml ()	赤血球MAP		新鮮凍結血漿		血小板製剤		アルブミン系製剤 (加熱人血漿蛋白+人血清アルブミン)		自己血 (貯血式で希釈 式を含む) *回収式を除く 使用量 ml
								総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (単位)	投与前 検査値	総使用量 (g)	投与前 検査値	
9-①		①男 ②女	①化学療法のみ ②造血幹細胞移植 (①の実施も含む)		①有 (自己血輸血の 併用:有・無) ②自己血輸血のみ ③無	①T&S法 ②MSBOS ③SBOE		Hb値() Ht値()		PT値() APTT値() フィブリノゲン値 ()		血小板数 ()		アルブミン濃度 ()		
9-②																

血液製剤の使用状況の記入方法(別添1関係)

平成16年度(平成16年4月1日から平成17年3月31日)の実績をお伺いします。

1. 下表の輸血用血液製剤の年間使用量を単位数(1単位は200ml由来)で記入して下さい。

(但し、自己血輸血は総使用量から除いて下さい。)

* 輸血用血液製剤の対象(製品名)は、参考2を参照して下さい。

* 廃棄分(期限内、期限外にかかわらず廃棄になったもの。日赤への返品を含む。)は除く。

製剤名	記入単位
赤血球濃厚液(MAP)	単位
新鮮凍結血漿	単位
血小板濃厚液	単位

2. 下表の血漿分画製剤の年間使用量(g)を記入して下さい。

* 備考欄の換算式により、本数からgへ換算して下さい。

* 血漿分画製剤の対象(製品名)は、参考3を参照して下さい。

製剤名	規 格	記入単位	備考
アルブミン製剤			(換算式)
加熱人血漿たん白	4. 4%100ml	g	1本×4. 4g
	4. 4%250ml	g	1本×11g
人血清アルブミン	5%100ml	g	1本×5g
	5%250ml	g	1本×12. 5g
	20%20ml	g	1本×4g
	20%50ml	g	1本×10g
	25%20ml	g	1本×5g
	25%50ml	g	1本×12. 5g
	合計	g	
免疫グロブリン製剤			
静注用免疫グロブリン	10ml0. 5g	g	1本×0. 5g
	20ml1g	g	1本×1g
	50ml2. 5g	g	1本×2. 5g
	100ml5g	g	1本×5g
	合計	g	

分類	製剤名	規格・単位	製品名(例示)
輸 血 用 血 液 製 劑	赤血球濃厚液	200ml由来 1袋	赤血球M・A・P「日赤」
	(MAP)	400ml由来 1袋	赤血球M・A・P「日赤」
		200ml由来 1袋	照射赤血球M・A・P「日赤」
		400ml由来 1袋	照射赤血球M・A・P「日赤」
	新鮮凍結血漿	80ml 1袋	新鮮凍結血漿「日赤」
		160ml 1袋	新鮮凍結血漿「日赤」
		450ml 1袋	新鮮凍結血漿「日赤」
	血小板濃厚液	1単位約 20ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		2単位約 40ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		5単位約100ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		10単位約200ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		15単位約250ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		20単位約250ml 1袋	濃厚血小板「日赤」
		1単位約 20ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		2単位約 40ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		5単位約100ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		10単位約200ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		15単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		20単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板「日赤」
		10単位約200ml 1袋	濃厚血小板HLA「日赤」
	15単位約250ml 1袋	濃厚血小板HLA「日赤」	
	20単位約250ml 1袋	濃厚血小板HLA「日赤」	
	10単位約200ml 1袋	照射濃厚血小板HLA「日赤」	
	15単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板HLA「日赤」	
	20単位約250ml 1袋	照射濃厚血小板HLA「日赤」	

分類	種類	規格・単位	製剤名（例示）
血漿分画	加熱人血漿たん白	100mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田)
		250mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田) プラスマネート・カッター(ハイエル) プラスマプロテインフラクション(ハクスター)
	人血清アルブミン	5%100mL1瓶	献血アルブミン(5%) - WF(ベネシス=三菱ウエルファーマ)
		5%250mL1瓶	アルブミン-5%(ZLB) アルブミン(5%)・カッター(ハイエル) プミネート5%(ハクスター)
		20%20mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田) 献血アルブミン20“化血研”(化血研=アルフレッサファーマ=アステラス=ZLB) 赤十字アルブミン20(日赤)
		20%50mL1瓶	献血アルブミン-ニチャク(日本製薬=武田) 赤十字アルブミン20(日赤) 献血アルブミン20“化血研”(化血研=アスウェル=藤沢=アルフレッサファーマ=アステラス=ZLB)
		25%20mL1瓶	献血アルブミン-WF(ベネシス=三菱ウエルファーマ) アルブミン(25%)・カッター(ハイエル) プミネート25%(ハクスター)
25%50mL1瓶	赤十字アルブミン25(日赤) 献血アルブミン25“化血研”(化血研=アルフレッサファーマ=アステラス=ZLB) 献血アルブミン-WF(ベネシス=三菱ウエルファーマ) 献血アルブミン25-ニチャク(日本製薬=武田) アルブミン-25%(ZLB) アルブミン(25%)・カッター(ハイエル) アルブミン25“ハクスター”(ハクスター) プミネート25%(ハクスター) 人血清アルブミン“化血研”(化血研=アスウェル)		
画製剤	人免疫グロブリン (静注用)	500mg10mL 1瓶	献血ベニロン-I(化血研=帝人) 献血グロベニン-I-ニチャク(日本製薬=武田) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ベネシス=三菱ウエルファーマ) ウエノグロブリン-IH(ベネシス=三菱ウエルファーマ) ホリグロビンN(ハイエル) ガンマ・ベニンP500mg(ZLB)
		1g20mL1瓶	献血ベニロン-I(化血研=帝人) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ベネシス=三菱ウエルファーマ)
	2.5g50mL 1瓶	献血ベニロン-I(化血研=帝人) 献血静注グロブリン“化血研”(化血研=アスウェル=アベンティス) ガンマ・ベニンP2.5g(ZLB) ガンマガード(ハクスター) サングロホール(ZLB) ホリグロビンN(ハイエル) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ベネシス=三菱ウエルファーマ) ウエノグロブリン-IH(ベネシス) 献血グロベニン-I-ニチャク(日本製薬=武田)	
		5g100mL1瓶	献血ベニロン-I(化血研=帝人) 献血グロベニン-I-ニチャク(日本製薬=武田) 献血ウエノグロブリン-IHヨシミ(ベネシス=三菱ウエルファーマ)